

写真が語る「いわき」の歴史



廃校となった分校の活用

少子化が地域に及ぼした影響の一つに廃校があります。昭和時代には教育機会の均等化を図るため、学校の統廃合や複式学級の解消など、学校教育の環境を是正する一環として積極的に実施されました。



田人第二小学校南大平分校 [平成7 (1995) 年12月 高萩純一氏撮影]

平成時代に入ると、学校の在り方が地域の核としての学校から、子どもの成長を考えた学校へシフトするようになりました。教育上、少人数での学校教育が除かれる方針となり、少人数学校の廃校が進んでいきます。

田人第二小学校南大平分校もその一つでした。児童数の減少で平成23(2011)年に休校、平成26(2014)年3月に廃校となりました。廃校後は、木造を生かした「田人アートミューテイング」の会場として活用されていました。

その後、市は田人町の振興につなげることを目的に、田人町の廃校5校を対象として民間事業者による廃校利活用を目指し公募を行いました。その結果、同分校ではスギ間伐材を使った高級割り箸などを製造していた「磐城高箸」が名乗りを上げ、平成31(2019)年2月、製造を開始しました。

工場の移転に際しては、木造校舎の魅力を残しながら耐震補強を施し、交流サロンを併設しました。地域の心よりどころとして存在していた学校は、今度は地場産業の核を加味しながら新しい歴史を刻むことになったのです。

(いわき地域学會 小宅幸一)

※いわき市内の昔の写真をお持ちで提供いただける方は、広報広聴課(☎22-7402)へご連絡ください。

市長です こんにちは⑬

勉強する意味とは？

いわき市長 内田 広之



市長室には、子どもたちも来てくれます。スポーツや芸術の全国大会で入賞されたとか、これから全国大会に出場される選手などです。

こうした時、子どもと懇談すると「スポーツは頑張っているけど、勉強はちょっと…」などという声も聞きます。

そんな時、私が話すのは、文武不岐の大切さ。つまり、文(勉強)と武(運動)は、共に重要で分けられず、文武相まって人は成長

するとの考えです。

いわきFCを経営する株式会社いわきスポーツクラブの大倉智代表取締役から聞いた話で、なるほどと思ったことがあります。それは、一流のプレイヤーは、しっかり勉強もしているという事実です。

ハイレベルな選手は、何度も何度も高い壁におち当たり、それを乗り越えて活躍しています。その原動力は、勉強を通じて養った論理力(筋道を立てて、解決方法を考える能力)や、いつも平常心で自分を見つめ、深く自己分析し行動する力なのです。

また、世界で活躍する選手は、外国語の勉強も欠かせません。

大倉社長から伺ったこれらのエピソードには説得力があります。

夢は人それぞれですが、本気で実現するには、スポーツでも芸術でも、どの分野でも、勉強はとても大切なのです。